

崇峻天皇御書

(三種財宝御書)

御書全集 1173頁 14行目〜16行目
編年体御書 1038頁 7行目〜9行目

中務三郎左衛門尉は 主の御ためにも 仏法

の御ためにも 世間の心ねも よかりけり・よ

かりけりと 鎌倉の人人の口にうたはれ給へ、

穴賢・穴賢、蔵の財よりも身の財すぐれた

り身の財より心の財第一なり

通解

中務三郎左衛門尉は、主君のためにも、仏法のためにも、世間においての心がけも、立派であった、立派であった、と鎌倉の人々にたたえられるようになりなさい。
蔵の財よりも身の財がすぐれている。身の財よりも心の財が第一である。

語句

中務三郎左衛門尉

四條金吾(頼基)のこと。中務三郎とは、父が中務省の官位を持ち、その三男であったということ。左衛門尉とは、自身の官位の名で、その中国風の呼び名が金吾。